



Special Issue

New Normal

これからの歯科医院を考える

今までの普通が普通ではなくなり、“新しい普通 (New Normal)” が定着しつつある。

社会が急速な変化を見せる現在はその転換の中にあり、
歯科医院も世の中の動き、患者さんのニーズ、働くスタッフの思いなどを汲み取り、
それに合わせて変わり続けていく必要があると言えるでしょう。

歯科医院が直面する課題と、未来を見据えたこれからの歯科医院について、考えていきます。

時代への対応が求められる、これからの歯科医院創り

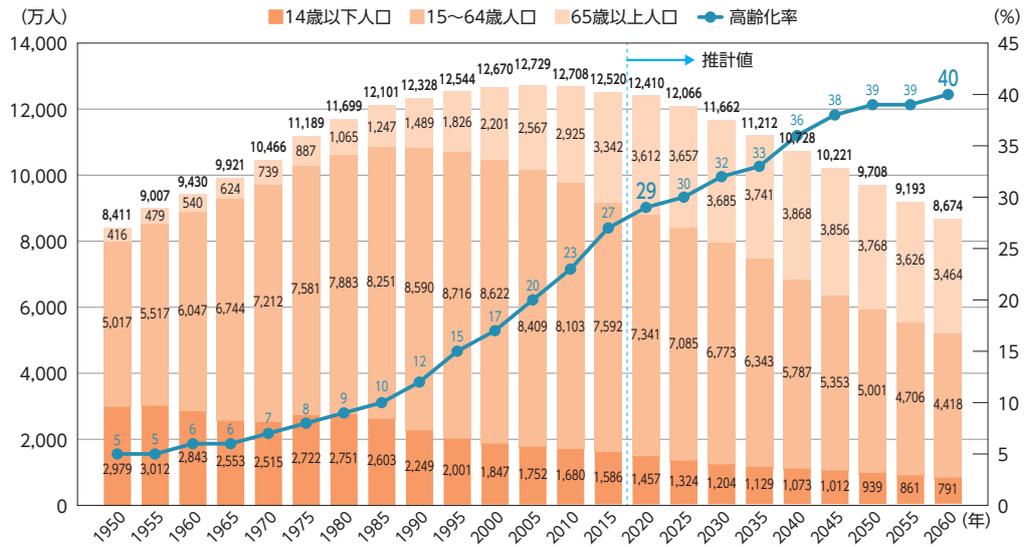
直近で歯科医院が直面した課題の最たるものが、新型コロナウイルス感染症によって大きく取り沙汰された、感染リスクへの対策でしょう。患者さんは感染に対し非常に敏感になり、歯科医院への足が遠のくといった影響も見られました。また、海外の報道などで「歯科医師と歯科衛生士は新型コロナウイルス感染症のリスクが高い」とされたのも記憶に新しいところです。患者さんと医療従事者を守り、医院へ安全に迎え入れるために、徹底した感染対策、およびその維持が今後也不可欠だと言えます。

この先時間を経ることにより顕在化する課題としては、少子高齢化による社会の変化が挙げられます。

2021年時点で日本の総人口に対する65歳以上の高齢者の割合は29%。そして推計では2060年に40%、つまり2.5人に1人が高齢者になるとされ、15歳～64歳の労働人口は減少の一途を辿ります。地方などではすでに人材不足が浮き彫りになっている部分があり、さらに今後は都市部も含め、人材不足が深刻化していくことが考えられます。スタッフをいかに確保するかやスタッフ減少をどうカバーするかは、多くの歯科医院が考慮しなくてはならない問題となります。

高齢化社会にもかかわらずのことですが、患者さんの疾病構造の変化にも対応する必要があるでしょう。患者さんの健康寿命を保つ

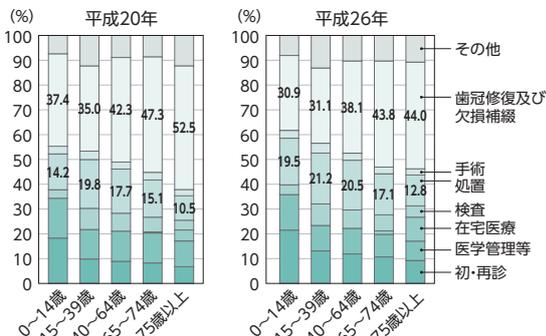
わが国の高齢化の推移と将来推計



(出典) 2015年までは総務省「国勢調査」(年齢不詳人口を除く)、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位推計)

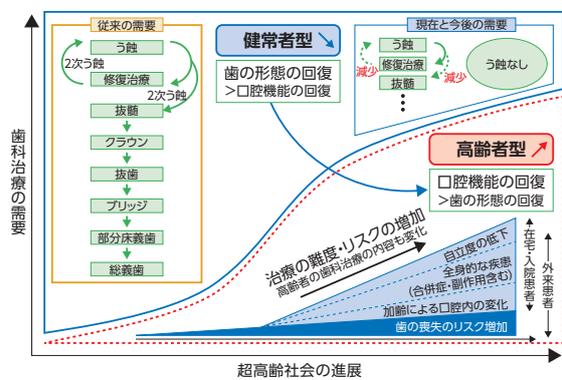
年齢区分別の人口、高齢化率について、推移と将来推計を示したグラフ。さらなる人口減少と高齢化率上昇が懸念されます。

診療行為別にみたレセプト1件あたり点数の構成割合
(平成20年と平成26年の比較)



厚生労働省 中医協資料(平成27年7月22日)「歯科医療(その1)」より

歯科治療の需要の将来予想(イメージ)



厚生労働省 中医協資料(平成29年12月6日)「歯科医療(その2)」より

近年の「レセプト1件あたりの点数の構成割合」の変化を見ると、歯冠修復及び欠損補綴が減少するなど、診療内容が変わってきていることがわかります(左図)。歯科の需要は、健常者型から高齢者型に移り変わっていくことが予想されます(右図)。

ことが歯科の重要な役割のひとつとなり、ケアを軸にした予防歯科が普及してきたのは皆さんご存知のとおりです。加えて、日本人の健康を害する生活習慣病の予防や改善に歯科が貢献できることも明らかになってきました。悪くなった部分の治療だけでなく、患者さんのQOLの維持も歯科に求められる分野となります。また、予防の意識が高まってきたことなども手伝い、治療以外のニーズをもって歯科医院を訪れる患者さんが増えている現状もあります。

そして、社会全体を見るとデジタル化の急激な進歩がありました。SNSによるコミュニケーションの拡大、リモートワークを活用した働き方など、より身近になったITが日常生活を変え、

さらに浸透してきます。患者さんと歯科医院のかかり合いにITが大きな位置を占めるようになり、またいろいろな問題の解決にもITが活用されるでしょう。

これからの歯科医院には、例えばこれらのような課題や動向への対応が求められるのではないのでしょうか。

今回は、対応の必要性を認識して、実際に取り組みを始めている3つの歯科医院の先生方を交えたディスカッションをお届けします。またあわせて、時代の変化に対応できるジーシー製品についてもお伝えします。歯科医院創りのヒントや、将来のことを考えるきっかけとなれば幸いです。

今回は3つの歯科医院の先生に
お話しいただきました

おおばファミリーデンタルクリニック 院長 金剛寺 宏輔 先生



神奈川県藤沢市の市街地に2021年5月に開業した歯科医院。マンションの1階テナントに位置し、設置ユニットは4台。休診日を設けず、平日は夜22時まで診療を行っており、地域の患者さんを絶えず迎え入れている。

稲毛デンタルクリニック 理事長 片山明彦 先生



千葉県千葉市に2021年11月に移転リニューアルした歯科医院。駅前ビルの1～3階を使用し、ユニットは10台。高度で安全な技術を地域の患者さんに届けることをモットーとしている。東京都有楽町に系列医院がある。

まるちよ歯科医院 理事長 佐藤大一 先生



北海道北見市に2016年に移転リニューアルした歯科医院。戸建ての2階建てで、広大なフロアにユニット15台を備える。2006年の開業から18年間で総患者数が1万4000人を超えた、日本有数の大型歯科医院。

感染リスクへの対応

感染リスク低減のポイントは 機械による院内のスマート化

これからの歯科医院を考えるうえで、感染症リスクへの対応の強化は必須と言えるでしょう。患者さんとスタッフの接触機会をできるだけ減らすため、自動精算機や案内システムの導入を検討する医院も増えてきています。

——特にコロナ禍での開業をお考えの先生は気になるところだと思います。金剛寺先生は2021年5月に新規開業されていますが、感染症対策は意識されましたか？

金剛寺 開業前に多くの先生方に話を聞いたり、勉強したりしたのですが、やはり成功している医院は感染症対策に高い意識を持っていることがわかりました。患者さんが安心して通院できる環境を作るのは絶対条件だと思いました。

——実際にどのような対策をとられましたか？

金剛寺 小売店などで自動精算機を導入しているところも増えてきましたよね。そうした異業種での傾向を参考にすると、やはり患者さんとスタッフが接触する機会を最小限にすることが、感染症対策につながるのではないかと考えました。そこで、当院ではNOMOCa-StandとNOMOCa-Guide type Gを導入し、受付を自動化したのです。



「おおばファミリーデンタルクリニック」の待合室

自動精算機 NOMOCa-stand

関連する
GC製品



患者さん自身で精算や、再来受付などが行える自動精算機。受付での金銭の収受が不要となるため、感染症対策にもつながります。関連製品の「NOMOCa-Guide type G」を導入すると、よりスムーズな患者さん誘導が実現します。

患者さんの来院時の受付や診療室への呼び出し、会計を機械で担います。ちなみに次回の予約や処方箋のお渡しなどはチェアサイドで行うようにしています。NOMOCa-Standにクレジットカード決済のオプションはまだつけていないので、自費診療でクレジットカード払いをされる場合などには会計作業が発生しますが、基本的に受付にスタッフは常駐しません。

— 導入から1年ほど経ちますが反応はいかがですか？

金剛寺 他業種でもこういったシステムが普及していることもあって、この院内の方針がより安全だということは皆さん理解していただけており、違和感なく受け入れていただいていると思います。患者さんに対して、感染症対策をしっかりと行っているというアピールにもなっていると考えています。また、もちろん消毒・滅菌室の体制をしっかりと整えたり、個室に換気システムを導入したりと、院内の衛生管理も徹底しました。

— 佐藤先生の医院はいかがでしょう？

佐藤 私の医院もNOMOCa-StandとNOMOCa-Guide type Gを導入し、同様のシステムで運用しています。受付は常駐していますが、患者さんとの金銭のやり取りが減るなど医院の運営がスマートになり、患者さんも納得されていると思います。



「まるちよ歯科医院」のメイン待合室

— 患者さんから「自動精算機をうまく操作できない」といった戸惑いの声はありますか？

佐藤 開院からしばらく経っての導入でしたので、ご高齢の患者さんなどが戸惑われることを懸念していましたが、病院などで案内画面での呼び出しや精算機での会計に慣れているようで、混乱はありませんでした。

金剛寺 私も、思っていた以上に患者さんが慣れるのが早かったのでビックリしています。一度説明すれば高齢者の方でもスムーズに操作をしていただけますね。

ただ、運営や操作の面よりホスピタリティの面でお声をいただくことがあります。受付を無人にしているのも、患者さんがお帰りになるときに「お大事に」の声をかけられません。患者さんからは「少し寂しい」というお言葉もいただきます。

— そういったお声に対してはどのように応えていますか？

金剛寺 「感染症のリスクを減らすため」ということを真摯にお伝えしてご理解いただいています。また、チェアサイドでより丁寧に対応することを心がけています。

— 片山先生は自動化や感染症対策についてどのようにお考えでしょうか？

片山 私の医院では自動精算機はまだ設置しておらず、NOMOCa-Guide type Gでの案内システムのみ導入しています。ホスピタリティと機械による自動化に折り合いをつけるのは、難しいところですね。自動精算機を導入していない— 因は、スタッフからの「ホスピタリティを維持したい」という意見でした。ただ先生方のお話を聞いて、感染症対策の観点で重要性を再認識しています。



「稲毛デンタルクリニック」の待合室

私はコロナ禍の2021年11月に医院をリニューアル移転したので、やはり感染症対策を強く意識しました。設計段階から、待合室を広くして患者さん同士のディスタンスを取れるようにしたり、案内システムを導入したりしました。当院は受付は1階、メインの診療フロアは2階とフロアが分かれているため、案内システムの導入により、スタッフの移動や接触を減らす、声を出さなくてもいいといった部分で感染症対策になっていると思います。

また、移転のタイミングでユニットをすべてイオム アクアにしたという点も当院の感染対策です。イオム アクアはユニットの水の清潔さを保つことができ、リスクの軽減につながっています。また、他社のユニットと比べ、スイッチを手で触れる機会が少なくて済むところも利点だと感じています。

歯科医院患者誘導システム

NOMOCa-Guide type G



診察案内から会計案内まで患者さんを誘導できるシステム。患者さんとスタッフが接触する機会を抑えることにつながり、感染症対策にも有効です。

歯科医院用コンピュータシステム

レセフィス/Pro



電子カルテに対応した歯科医院用コンピュータで、レセフィスの特長であるシンプルでカルテライクなデザインと充実したアシスト機能を持ち、問題志向型カルテの基本となるSOAP入力 (Subject, Object, Assessment, Plan) も素早く簡単に行うことができます。

雇用難において 貴重なスタッフを集め、活かす

少子高齢化が進み、今後はこれまで以上にスタッフの確保が難しくなるかもしれません。どう人材を集めるか、どうスタッフの負担を減らすか。具体的に考えていく必要があります。

——地方都市である北見市で開業された佐藤先生は、特にスタッフの確保に気を遣われていると思います。

佐藤 雇用に関しては常に課題を抱えていますね。当院は予防に力を入れており、鍵を握るのが歯科衛生士です。現在12名の歯科衛生士に働いてもらっていますが、当院の規模からすると最低限の人数であり、確保はもちろん増員していかなければ、診療にも大きく影響してしまいます。

10年ほど前に北見市に歯科衛生士の専門学校が開校されて、私はそちらで非常勤講師を務めています。そうした関係もあって、学生に当院に実習に来ていただき、そのまま就職していただける方もいるので助かっています。

ただ、そもそも歯科衛生士になりたいという人が少ないと感じています。その専門学校も毎年定員割れしているのが現状です。そこで、私は地元の高校に頼んで講義の機会をいただいて、高校生に歯科の仕事の魅力を話すという活動も行っています。その中の一人でも歯科の道に進んでもらい地元で歯科の仕事

に就いていただければ、地域の歯科医療の発展につながるのではと考えるからです。

——大型歯科医院を切り盛りされる先生の危機感がうかがえます。神奈川県で開業されている金剛寺先生は、スタッフの確保について対策をされていますか？

金剛寺 幸い、当院は今のところ雇用には苦勞していません。ただ開業したてということもあって、青天井にスタッフを雇用することはできず、限られた人材をできるだけ治療に集約させる必要がありました。受付を無人化した理由はこの部分にもあり、非常にメリットを感じています。また、開業前には「自分一人しかいなくても何とかできるように」と考えていました。当院は他の医院に比べて診療時間を長くとっているため、スタッフが全員都合がつかず、私だけになることもあるのではという心配がありました。そんなときにでも院内が自動化されていれば何とかなんと。実際にはそういった状況はないのですが、体制を構築しておくことで、心に余裕ができました。

——今後の展望についてお聞かせください。

佐藤 対策を進めていますが、雇用難を完全に解消するのは難しいでしょう。我々がやりたい歯科医療はまだまだ実現していませんし、人手が足りずに患者さんが予約をとりにくいという状況でもあります。人手をカバーして運営の体制を向上し、医院を継続することが重要であり、NOMOCa-StandとNOMOCa-Guide type Gの導入で会計など一部の機能を自動化してスタッフの負担を軽減したことはその第一歩になったと思います。

金剛寺 我々の本分は患者さんに充実した歯科医療を提供することであり、雇用については、各医院でいかに良い医療を提供するかという視点から逆算して考える必要があると思います。当院では、受付の無人化によって、院内のリソースを治療に集中するという形が作れたと思っています。

おおばファミリーデンタルクリニック 受付無人化の取り組み

「おおばファミリーデンタルクリニック」の受付の無人化は、以下のように待合室側とバックヤード側をうまく連動させることで実現しています。医院の仕組みが説明された動画(右記QRコード)もあわせて、ご覧ください。

院内の様子がわかる動画はコチラ



待合室側

NOMOCa-stand

NOMOCa-Guide type G (案内画面)



待合室にNOMOCa-standとNOMOCa-Guide type Gの案内画面を設置。患者さんはQRコード付きの診察券で来院の受付ができ、あとは案内画面の指示で診療を受け、診療後は会計の呼び出しを確認した後、自動精算機で精算を済ませて退出する。

バックヤード側

NOMOCa-Guide type G(管理端末)

待合室を映したカメラの映像



バックヤードにはNOMOCa-Guide type Gの管理端末があり、患者さんの来院を確認したら担当術者が診療室に呼び込む手配をする。診療後、レセプトの処理を済ませたら患者さんを会計に呼び出して終了となる。また、患者さんが困っていたり、問題が起きたりしていないか確認するため、待合室の状態をカメラを通じて見られるようにしている。

3

疾病構造の変化への対応

診断技術の向上や 新しい検査を臨床に取り込む

医療の発達や社会の移り変わりにあわせ、日本人の疾病構造も大きく変化しています。歯科に求められる診療も、全身疾患にかかわる歯周病の治療や、健康寿命延伸につながる口腔機能の維持などに重きが置かれるようになってきました。

——片山先生は歯周治療を専門とされています。この先歯周治療はどのような部分を強化していく必要があるのでしょうか。

片山 昨今の診断技術の向上を活用し、歯周治療の成功率をより高めていくことが大事だと考えます。以前は2DのX線写真やプロービングから病態を推測していましたが、いまは3D CTが登場して、骨欠損の状態などが確実に把握できるようになりました。重度の歯周病の歯を守る歯周組織再生療法などは、今後より求められるようになると思いますが、その成功率を高めるには高精度の診断が不可欠であり、新しい診断技術を積極的に取り入れていくことが重要だと考えています。

また歯周治療だけに限りませんが、マイクロスコープは診断や治療、そして患者さんへの説明においても非常に有用です。マイクロスコープの拡大画像を患者さんと共有することで患者さんの理解度が高まり、治療への意欲が格段に変わります。どの治療もそうですが、患者さんがしっかり理解して受けていただけることで、はじめて良好な治療結果が成り立つものですから。

——健康寿命延伸のために患者さんの口腔機能が注目され、歯科では口腔機能低下症への対応が始まりました。医院での取り組みはいかがでしょうか。

佐藤 当院では検査用の部屋を設け、検査体制を整えました。

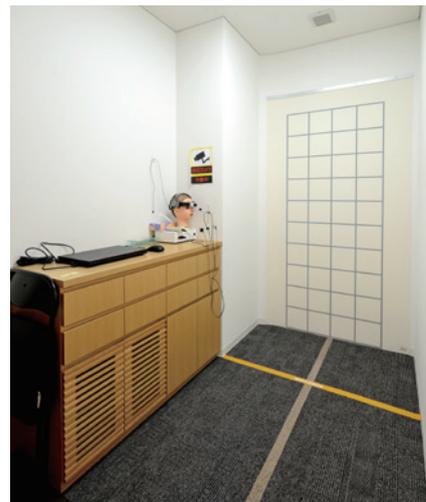
検査は基本的に高齢者が対象ではありますが、小児でも必要に応じて行います。最近の子どもは嚙む力が弱くなっていることがあり、その確認に咀嚼能力検査は有効だと思っています。現状は、治療やケアを優先させているのでなかなか積極的に行えてはいないのですが、もっと取り組まなければいけないことだという認識を持っています。

片山 当院でも口腔機能低下症の検査は定期的に行っています。これはとても有意義な取り組みであり、続けていかなければいけないと思う反面、非常にもったいないとも思っています。——それはどんな点でしょうか。

片山 せっかく全身にもかかわりのある検査なのに、歯科で完結してしまっているということです。口腔の衰えから全身の状態が見えることもあると思いますし、全身の状態から歯科治療で気を付けなければならないこともあります。そういった観点から、口腔機能低下症の検査を本当に活かすためには、医科との連携が必要ではないかと感じます。

——患者さんの疾病構造の変化に対応するためにも、医科歯科連携を推進することは重要ですね。

片山 患者さんの求める医療を実現するために、我々歯科医師と医師がもっと手を携えなくてはなりません。



「まるちよ歯科医院」の検査室。口腔機能低下症など、各種検査が行えるようになっている。

アーム型X線CT診断装置

Aadva GX-100 3D



CBCT、パノラマ、セファロなどに対応したX線撮影装置。ペリオ、エンド、インプラントや矯正治療などさまざまな診療において、正確で詳細な診断画像を提供します。

マイクロスコープ

手術顕微鏡 EXTARO 300



カールツァイス社製手術顕微鏡。操作を全て顕微鏡の中心部に集約。光量調節、対物レンズ操作時もハンドルから手を放すことなく、片手のみの操作を行うことができ診療の妨げになりません。

咀嚼能力検査装置

グルコセンサーGS-II



グルコース含有グミ「グルコラム」を20秒間咀嚼してもらうことで、咀嚼能力を数値化できます。術前後の咀嚼能力の比較が行えるため、患者さんのモチベーションアップや治療経過の把握に活用いただけます。

関連する
GC製品

患者さんの希望を 敏感に捉え、応える

疾病構造の変化や、新型コロナウイルス感染症など、これまでに話題に挙がった社会的な変化は、歯科医院を訪れる患者さんのニーズにも影響を与えています。

—新型コロナウイルス感染症の拡大以降のマスク生活が、患者さんと歯科の関係にも大きな影響を与えています。昨今の報道では口臭が気になるので改善したい、あるいはマスクを取ったときの印象が目立つためホワイトニングをしたいといった需要があると聞きますが、いかがですか？

片山 私もそうした報道をよく耳にしますが、臨床実感として口臭改善やホワイトニングを求める患者さんが増えた印象はありません。ただ、そうした傾向があるとしたら、マスクをすることで、患者さんが自分のお口の健康を気にすることが増えたのかもしれない。

佐藤 私が思うのは、患者さんのニーズはこちらから引き出さないと出てこないということです。当院では治療を終えると、メンテナンスの方針をご説明するために患者さんに来院いただくのですが、その際に選択肢としてホワイトニングの話もさせてもらっています。そこで患者さんから「こんな治療があるならやってみよう」という反応をいただくこともあり、患者さんの潜在ニーズは高いと感じています。

—片山先生の医院で、コロナ禍から患者さんのニーズが変化したと感じることはありますか？

片山 マスク中心の生活になったためだと思いますが、矯正治療が圧倒的に増えました。アライナー矯正も需要が高いですが、思い切ってワイヤー矯正してしまおうと考えている患者さんが非常に多いです。

—今のうちにと考える方が多いということですね。その他に、患者さんのニーズの変化を感じることはありますか？

片山 感染症対策の部分と重なってしまっていますが、患者さんが歯科医院の衛生面を非常に気にするようになったと思います。衛生面に配慮された医院に通いたいという患者さんのニーズは前からありましたが、コロナ禍になってその傾向に一気に拍車がかかりました。

先述のとおり当院ではユニットをイオム アクアに替えました。その理由として、ユニット内の水の清潔さを保てるというメリットはもちろんなのですが、洗浄液の窓部分から見えるブルーのライトが患者さんに清潔感を伝えてくれる点も大きいと考えています。清潔であることをきちんとアピールすることも、ニーズへの対応の手段だと考えます。



「稲毛デンタルクリニック」に設置されたイオム アクア。窓からのぞく青いライトが衛生管理を患者さんにアピールする。

—お話をうかがうと、歯科医院ごとに、来院される患者さんのニーズを敏感に捉えることが重要であるように思いました。

佐藤 その鍵を握るのは、カウンセリングだと考えています。しっかり説明するとともに、患者さんの声に耳を傾けることで、患者さんの希望を感じられると思います。

片山 そうですね。私は、何事においても“風を感じる”ことが重要だと思っています。患者さんの声を聞くとともに私が密に行っているのは、スタッフとのコミュニケーションです。患者さんに日々接し、一番風を感じているのは、スタッフだと思います。スタッフと密にコミュニケーションをとることで、日々患者さんのニーズを更新し、診療に取り入れています。

歯科用ユニット イオム アクア



人間工学に基づいた人にやさしい有機的なデザインと、診療形態の多様性を追求したイオムシリーズの最新ユニット。ユニット内の水をきれいに保つ自動洗浄機能を備え、衛生環境を守ります。

歯科用漂白材 ティオン オフィス



歯科用ホームホワイトニング ティオン ホーム プラチナ



高い効果と低刺激性を両立させたオフィスホワイトニング用「ティオン オフィス」と、早い段階から効果を発揮するホームホワイトニング用「ティオン ホーム プラチナ」で患者さんの満足いくホワイトニングを実現できます。

関連する
GC製品

5

歯科に必要なIT進化の方向性

加速する歯科へのIT導入
課題はデータの一元化

日進月歩のIT技術は歯科にも深くかかわるようになり、これからの多くの課題への対応のカギにもなるでしょう。歯科医院の現場で必要と考えるITの進化の方向性について、語っていただきました。

——まず、受付を無人化された金剛寺先生にお聞きします。今後、このシステムは普及すると思いますか？

金剛寺 実際に導入した感覚として、どんどん普及していくと思います。特に、私のような小規模の医院を新規開業する先生方にとっては、この先を見据えると有力な選択肢となるはずで、開業に際して初期費用がかさむという側面はありますが、受付スタッフの人件費を考えると、2年程度でその分の投資は回収できるでしょう。感染症対策やそれ以外のメリットを考えても、受付、呼出、会計の自動化というのは、有用だと思います。



「おおばファミリーデンタルクリニック」の無人の受付と患者さんの動線。これがこれからのスタンダードになっていく可能性もある。

——佐藤先生は、大型医院としていろいろな機器を導入され、院内のIT化の推進も積極的に行われていると思います。歯科におけるITのさらなる進化については、どうお考えでしょうか。

佐藤 IT化というと、どうしても院内にどんな機器をそろえるかというところに目が行きがちですが、まったく違う視点でのIT化もあります。例えばスマートフォン。ほとんどの患者さんはすでに優れ

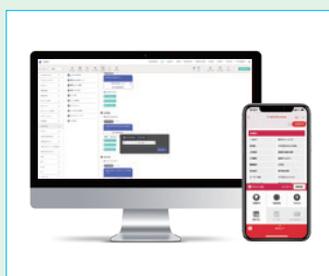
たITの端末を1人1台所持しているわけで、これを利用しないのはもったいないでしょう。患者さんが1つのアプリで予約から受付、会計ができ、さらに自分の口腔内写真が見られたり、自費診療の案内なども見られたりしたら便利です。それを歯科医院側で管理すれば幅広い効率化につながるのではないのでしょうか。いま、既存のサービスでも部分的に行われていますが、それを1箇所にまとめて簡単に扱えるようなシステムの開発に期待したいですね。——ご意見ありがとうございます。一元化するというのがキーワードになりますね。片山先生はいかがでしょう。

片山 私も医院の運営や臨床において、このデータはこのシステムでは読み込めない、といった規格の違いに不便さを感じるがあります。競争していく中で独自規格を進めていきたいというメーカーサイドの考えはもちろん理解できるのですが、ユーザーサイド、さらに言えば患者さんの利益を考えると、データの一元化や連携といった部分に向けて、もっとスクラムを組んでいきたいと思っています。

——メーカーとしては耳の痛いご意見ですが、真摯に受け止めたいと思います。また、先程来話題に上がっているNOMOCaのシステムは、複数社のレセコンとの連携が可能となっています。これからの歯科医院に貢献できるIT化の方針として、こういった姿勢が必要なのでしょうか。

片山 IT化というのは、目的ではなく手段だと思うのです。歯科医院の目的は、さまざまな困難な課題を解決して地域の患者さんの健康を守り、スタッフを幸せにすることです。そのために、我々臨床家は知恵を絞って、社会や技術の変化からどんなことができるかを、真剣に考えていく必要があると思います。

これからの歯科医院にはこれまで以上にいろいろな課題が立ち上がり、困難も予想されます。ジーシーはこの課題を乗り越えるための製品やサービスの開発を「G-ZONE」と称して、今後も展開してまいります。皆さまとともに考え、歯科医療従事者をサポートし、患者さんの笑顔や健康に貢献していければと考えています。3名の先生方、貴重なご意見ありがとうございました。「おおばファミリーデンタルクリニック」の院内の様子は16ページのQRコード（動画）で、また次ページ以降では「稲毛デンタルクリニック」と「まるちよ歯科医院」を紹介しています。ぜひご覧ください。

LINE公式アカウント制作サービス
CLINIC BOT

LINEを用いて、問診、予約、診察券などの機能をスマートフォンで利用できるサービスです。レセコンコンピュータ「レセフィスPro」やWEB予約システム「iApo」とリンクさせることで、予約や来院時の受付がスマートフォンで行えます。

歯科医院予約システム

iApo



見やすく使いやすい管理画面と様々な機能で、受付業務の効率改善を図れる予約システム。クラウド型のため、いつでもどこでも予約・確認できることが特長です。

これからをカタチに 私の未来型歯科医院

千葉県千葉市稲毛区
医療法人社団 明佳会

稲毛デンタルクリニック

スタッフ: 歯科医師13名(非常勤含む) 歯科衛生士11名 歯科技工士2名 歯科助手・受付7名
ユニット: 10台 床面積: 1階 113.84m² 2階 121.06m² 3階 121.06m² 合計 355.96m²



理事長 片山明彦 先生

「稲毛デンタルクリニック」は、2007年に千葉市稲毛区に開業。歯周病専門の歯科医院としてスタートを切った後、徐々に各方面のエキスパートたちが集まり、確かな診療体制を築いている。インプラント、矯正、歯内療法など、難度の高い治療を求めて訪れる患者さんが多く、自費率も高い。2021年11月に同区内にて移転リニューアルを果たした。



洗練された雰囲気への受付。



患者さんは受付を済ませたあとこの待合室で待機し、案内画面での案内を確認して、各フロアの診療室に向かう。

3つのフロアからなる院内

運営上の問題を案内システム導入でスマートに

「稲毛デンタルクリニック」はビルの1階から3階の3つのフロアを持っている。1階は総合受付と待合室。また、ユニットも3台配置されており、主にメンテナンスやご高齢で脚が不自由な方の治療が行われる。2階はメインの診療フロアで、6台のユニットが設置され、消毒・滅菌室も配されている。3階はユニット1台のオペ室と、スタッフルームや技工室などに使用され

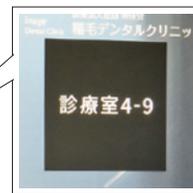
ている。

階ごとの主な役割を分け、スペースを有効活用した院内となっているが、例えばメイン診療室の2階で治療を行う場合、スタッフが1階の待合室まで患者さんを迎えに行き、診療後には1階まで見送るなど、スタッフが階をまたいで院内を動き回る必要もあった。

そこで、NOMOCa-Guide type Gによる患者さんの案内システムを導入した。これによって、患者さんを診療フロアに呼ぶことができ、結果スタッフが各フロアを行き来する回数は大幅

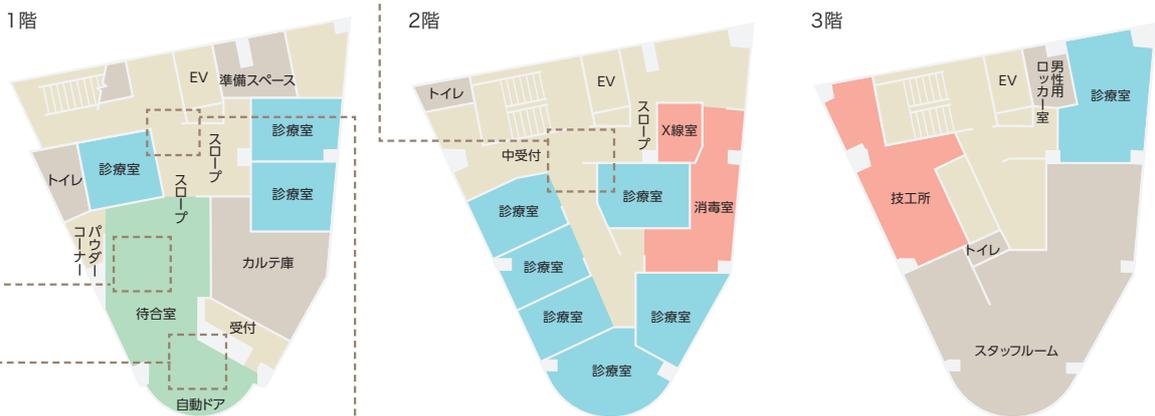


2階の診療室エリア。待合室の案内画面と同じ内容を表示するディスプレイを設置し、案内の状態を確認できるようにしている。また、呼び出し操作は各階のどのPCからも行えるようになっている。



呼び出された患者さんが迷わないように、院内の案内表示をわかりやすくするなどの配慮もなされている。

稲毛デンタルクリニック 平面図



に減少。スタッフは空いた時間を他の作業に充てられ、全体的に院内の効率化につながっている。

片山先生がNOMOCa-Guide type Gの導入を決めた理由のひとつとして強調するのが、優れた互換性だ。「稲毛デンタルクリニック」では開院以来ノーザのレセコンを使用しているが、NOMOCa-Guide type Gはノーザのレセコンとの連携も可能となっており、医院のレセコンを切り替えることなくスムーズに導入できたことが大きかったという。



1階待合室奥の診療室エリア。こちらにもPCがあり、患者さんの呼び出しができる。



院内の診療スペースは個室やパーティションで区切られたタイプなどさまざま、いずれにもイオム アクアが導入されている。



青いライトが患者さんに清潔感をイメージさせるイオム アクア。また術者目線では、エアフローがビルトインできる点も選定の理由だったとのこと。事前準備が必要なカートタイプや1回分しか粉を入れられないカプリングタイプでは実現できない効率化ができ、大きなメリットを感じているようだ。

ずらりとそろったエキスパート集団が 力を合わせて歯科医療を提供

「稲毛デンタルクリニック」の開院は2007年。開院当初から5名の歯周病専門医が在籍しており、名実ともに歯周病専門の歯科医院となった。当時、歯周外科の分野はテクニックセンシティブとされており、しっかりと対応できる歯科医院が少なく、患者さんたちから大いに支持を集めたという。

「最初は歯周病専門を標榜して開業したのですが、それからさまざまな専門の先生方が次々に集まってきて、できることがどんどん増え、いまに至っています」

片山先生の言葉どおり、現在「稲毛デンタルクリニック」には13人もの歯科医師が在籍している。また驚くべきは、認定医や専門医の資格を持つ歯科医師の多さである。待合室の壁にはたくさんの証書が掲示されている。

「若い先生たちには、あまり先入観を持たずに自分の好きなジャンルを見つけるように話しています。そして、できる限りそれをサポートしていく。この姿勢がエキスパートを多く輩出する土壌となったのかもしれません」

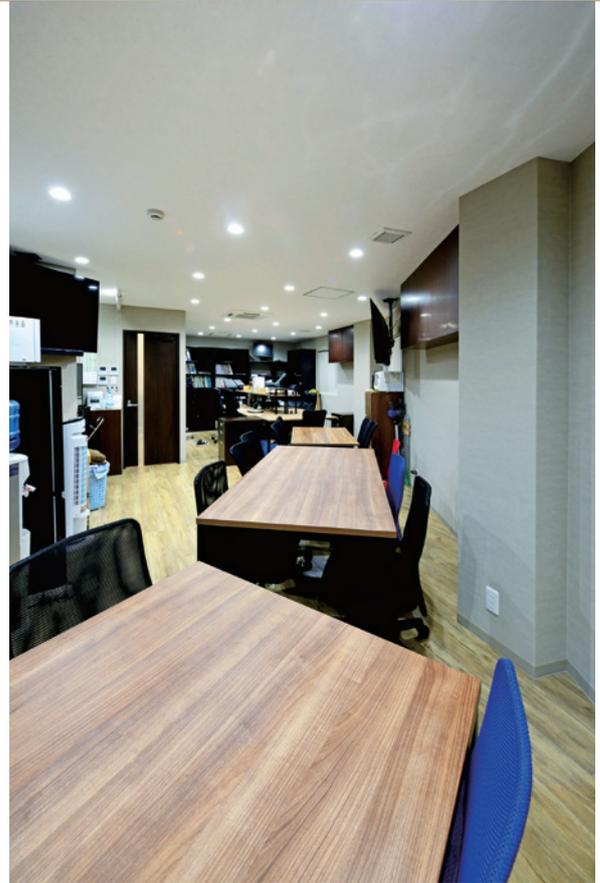
多方面に長けた先生方が技術や知恵を出し合って、さまざまなニーズに対応した歯科医療を提供できる。「稲毛デンタルクリニック」の診療体制は、地域に住む患者さんにとって、実に心強いものと言えるだろう。



認定医の証書などが、待合室の壁に掲示されている。充実した診療体制がうかがえる。



消毒・滅菌室にはバキュレープ31B+などが備えられ、日々確実な衛生管理が行われている。



3階のスタッフルームは大きな面積を確保。スタッフ間の綿密なコミュニケーションや、診療の合間の休憩などに活用されている。

スタッフを守り、患者さんを守り すべての人を幸せにする

「稲毛デンタルクリニック」が移転を果たしたのは2021年11月。まさに、コロナ禍のただ中での移転となった。当時の心境を片山先生はこう振り返る。

「感染症対策というと、どうしても患者さんへの対策に目が行きがちですが、それは当然のこととして、同じくらいスタッフを守る、スタッフに感染させないという意識が強かったです」

移転にあたっては、院内のユニットをイオム アクアに一新している。ユニット内部の水の清潔を保つことの重要性を把握し、患者さんやスタッフにとってより安全な歯科医療を行うための選択だったようだ。

また、医院独自の取り組みとして、院内でよく触れる箇所の調査を率先して実施した。これは、スタッフと患者さんの手にブラックライトで光る塗料を塗って院内を利用してもらうというもので、結果チェアの上やライトの取っ手など、よく触られて汚れやすい箇所がわかり、そこを重点的に清掃することで、交差感染の予防につながっているという（※右のQRコードより動画をご覧ください）。

「医院の究極の目標は、みんなを幸せにすることです。幸せにする順番として、まずは身近な人、つまりスタッフが幸せでないといけないと思います。スタッフを幸せにできないと患者さんを

幸せにすることはできません」

そう語る片山理事長の表情は、治療中の厳しさが消え、優しさに包まれていた。

患者さんのニーズに応えられる強固な診療体制、効率化が推進された院内、安心安全な医療の提供。「稲毛デンタルクリニック」はこれからの見据えて、邁進を続けていく。



院内でよく触れる箇所の
調査動画はコチラ

※調査動画は本院（有楽町デンタル
オフィス）での動画です



医院があるのは稲毛駅のすぐ近く。
通いやすい立地で、患者さんを迎
え入れている。

これからをカタチに 私の未来型歯科医院

北海道北見市清月町
医療法人社団 大縁会

まるちよ歯科医院

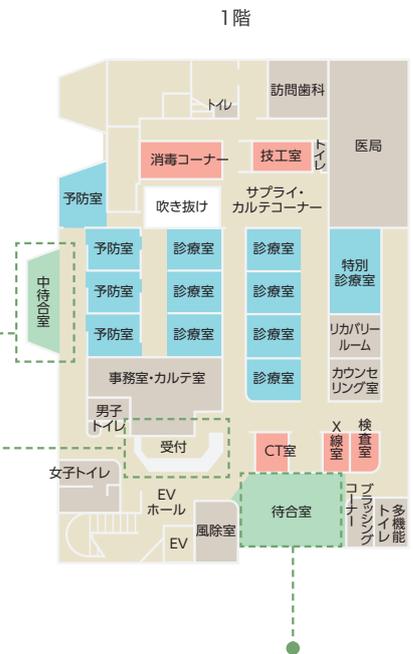
スタッフ：歯科医師7名 歯科衛生士10名 歯科技工士4名 歯科助手10名 介護福祉士2名 保育士1名 受付・事務10名
ユニット：15台 床面積：1階 688.80m² 2階 540.11m² 計 1,288.91m²



理事長 佐藤大一 先生

「まるちよ歯科医院」は2004年北見市にてユニット3台、スタッフ3名で開業。その後、2016年に同市内に新築移転し、現在スタッフの人数は44名にまで増員。日本でも有数の大型歯科医院となっている。また、訪問診療も常時稼働しており、地域の通院困難な患者さんにも歯科医療を提供している。

まるちよ歯科医院 平面図



メンテナンス目的の患者さんが待機する中待合室。落ち着いた雰囲気には設えられている。椅子の背面側に診療室があり、患者さんは案内画面の呼び出しを受けて、それぞれの診療ブースに向かう。



エントランスの先にある受付エリア。患者さんはここで受付を済ませ、それぞれの待合室に移動する。自動精算機も設置され、スタッフと会計のやり取りをせずに精算が行えるようになっている。



メンテナンスと小児以外の患者さんが待機するメイン待合室。明るく広々とした空間で、その広さをカバーするべく案内画面を2つ設置している。



メンテナンスの診療室にはイオム レガロのカートタイプを導入している。



満足のいく診療を行うため、カウンセリングルームでしっかりと相談を行う。



院内の技工室。来院者、特に子どもたちが見て、興味をもってもらいたいという考えから、壁をガラス張りにしている。

“まるちよ”の意外な原点

理事長の佐藤大一先生は、カーリングで有名な旧常呂町出身。実家は地元で愛されるスーパーマーケットを営んでおり、「まるちよ歯科医院」の「まるちよ」はその店の名前である。将来家業を継ぐつもりでいた佐藤先生は、お店を発展させるためにはどうしたらいいかを考えを巡らすようになった。

「お店の発展のためにスーパーにドラッグストアを併設させられたらと思い、最初は薬剤師になろうと考えていました」

佐藤先生は、薬剤師になるべく医療について勉強を進めるうち、地域の役に立ち、健康に寄与する歯科の重要性に目覚め、しだいに歯科医師の道を志望するようになったという。

佐藤先生は日本歯科大学新潟歯学部を卒業すると、5年間勤務医として研鑽を積んだ。勤務医時代のモットーは“借金し

ても勉強する”で、さまざまな勉強会に通い、矯正、インプラント、小児、あらゆる技術の習得に努めた。結果として、この期間に学んだことがその後活かされることになった。29歳の若さで開業すると患者さんが殺到。当時近隣医院では矯正やインプラントなどに積極的に取り組んでいたところがほとんどなく、差別化できたことがプラスに働いたようだ。その後も患者さんは順調に増え、大型歯科医院にリニューアルし、地域の多くの患者さんを支えることとなった。リニューアルのコンセプトは「総合病院のような歯科医院」であり、行き届いた診療とホスピタリティを提供するため、院内設備やスタッフの充実を図っている。

ゆりかごから旅立ちまで いつも患者さんのそばにいる歯科医院

「まるちよ歯科医院」では、患者さんのどのライフステージにおいても寄り添える歯科医療を目指している。





2階のキッズスペース兼待合室。子ども用のトイレや授乳室も併設されている。キッズスペースは子供が走り回れるぐらいに広い。また、待合席にはUSB給電が可能なコンセントなども設置されており、保護者も落ち着いて過ごせる。



院内のセミナールーム。マイクやプロジェクタの設備があり、講師を招いて勉強会を開催することもある。映像が投影される壁は、より鮮明に映像が映るよう、壁紙の選定にもこだわったそうだ。



多機能トイレの便座は、車いすから左右どちらからでも座れるよう、部屋の角に斜めに設置されている。



多機能トイレの横にはブラッシング専用の洗面台も配備。

「妊娠時のマタニティ歯科から、家族の成長をずっと見守って、ご高齢になって訪問診療まで、まさに『ゆりかごから旅立ちまで』いつもそばにいる歯科医院でありたいと思っています」

完全バリアフリーの院内レイアウトや、充実させたキッズスペースなどからも、佐藤先生のイメージする歯科医院の姿がうかがえる。

人材の育成を通じて 地域の医療を全体をフォローしたい

雇用難の時代に集まってくれた44名のスタッフをいかに育て、医院を成長させていくか。佐藤理事長はこの課題にも明確なコンセプトを持っていた。

「毎月第3木曜日を休診にして、その時間を勉強に充てています。講師を招いて勉強会を開くこともあります」

自身の勤務医時代は休日返上で勉強会に参加していた佐藤先生だが、経営者の立場からは同じことをスタッフには求めず、むしろ「これからは給料を払って勉強をさせる時代」と考えている。診療の質を保つためにはこういった人材育成が必要であり、また、先生が描く未来像にもつながっていくという。

「私は、本当にこの町のために頑張っているという意識があり

勉強用の机も用意された図書室。棚には歯科関係の書籍などが並び、スタッフが借りて読めるほか、患者さんに本を貸し出すこともあるという。



ます。そう考えると、私たちの歯科医院に多くの患者さんが来ていただけることはありがたいのですが、選択肢がここだけしかないという状態は患者さんにとっていいことだとは思えません。ですから、しっかりと人材をここで育て、卒業した人材がゆくゆくはこの町で歯科医院を開業し、ともに切磋琢磨しながら地域の歯科医療を盛り上げていければいいなと思っています」



労働人口が減少し、地域医療の存続が危ぶまれつつある中で、大型の歯科医院を運営して地域の患者さんを支えつつ、さらにはふるさとの医療全体の活性化も望む。佐藤先生と「まるちよ歯科医院」は、これからに向けて、今日も奮闘している。